

音楽文化のトランスボーダー Vol.5

# 青野原収容所俘虜の記憶を辿る

2019年 10月 31日（木）18:00～ 入場無料

神戸大学大学院 人間発達環境学研究所  
鶴甲第2キャンパス C111教室

講演：大津留厚（神戸大学名誉教授）  
聴き手：大田美佐子（表現系講座・音楽学）  
演奏：セレーノ弦楽四重奏団／有馬圭亮

演奏曲目

グリーク《ソルヴェイグの歌》

F.シューベルト《魔王》

E.W.コルンゴルト《ピアノ五重奏曲》

演奏者の都合により当日のプログラムが変更になる場合があります。予めご了承ください。

表現系音楽学の大学院では、「音楽文化のトランスボーダーをめぐって」というテーマで、内外の音楽研究者、音楽家、俳優などとの対話を通して、音楽文化の多様な状況への理解を深めてきた。5回目の今回は、第1次世界大戦時に兵庫県青野原俘虜収容所にいた300人のオーストリア＝ハンガリー帝国の捕虜たちの物語である。大戦の最中、捕虜たちは遠く日本の地で生き、制限された環境下ではあるものの人間的で、文化的な生活を送っていた。2019年末には彼らの本国帰還100年を記念して、故郷であるオーストリアの博物館で遺留品の展示会を行う。日本とオーストリアで捕虜たちが演奏した音楽の再現演奏会をして、当時の彼らの思いに心を寄せ、文化的記憶を語り、日奥の友好と未来を思う機会を設けたい。







## 大津留厚

神戸大学名誉教授。専門はハプスブルク帝国史、オーストリア近現代史。

著書に『ハプスブルクの実験—多文化共存を目指して』（中央公論社〔中公新書〕、1995／増補改訂版、春風社、2007）、『青野原俘虜収容所の世界—第一次世界大戦とオーストリア捕虜兵』（山川出版社、2007）、『捕虜が働くとき—第一次世界大戦・総力戦の狭間で』（人文書院、2013年）などがある。



## 横山亜美（ヴァイオリン）

大阪の箕面市生まれ。6歳よりヴァイオリンをはじめ。父 故・横山莞五、母 故・清水玲子、ナンドール・セデルケニ氏(元大阪センチュリーオーケストラコンサートマスター)に師事。2008年よりイタリアに留学、2013年クレモナ国立クラウディオ・モンテヴェルディ音楽院を満点で卒業。同年、フィレンツェ・クレッシェント国際ヴァイオリンコンクールソロの部で第一位を受賞。イタリア・シエナ・キジャーナ音楽院にてサルヴァトーレ・アッカルド氏に師事。その他、アーロン・ロザンド氏らのマスターコースを受講。日本へ完全帰国した後、2014年に大阪ザ・フェニックスホールにてデビューリサイタルを行い好評を得る。現在は生まれ育った大阪箕面を拠点に、国内各地でソロ、室内楽の演奏活動をしている。セレーノチェンバーオーケストラ常任コンサートマスター。



## 後藤維花（ヴァイオリン）

大阪府大阪市出身。3歳よりヴァイオリンを始める。13歳の時にソリストとしてオーケストラと初共演。2018年、ブルガリアでソリストとしてオーケストラと共演。第16回17回18回大阪国際音楽コンクール入賞。これまでに後藤維都江、海野義雄、ドロシー・ディレイ、加藤菜津子、各師に師事。現在は関西を拠点として、ソロ、オーケストラ、ウェディング、カルテットなどの演奏活動を行なっている。ヤマハ・三木楽器音楽教室講師。



## 春田真理子（ヴィオラ）

大阪教育大学芸術専攻音楽コース卒業。ヴィオラスペースに於いて今井信子氏のマスタークラスを受講。また東京国際芸術協会より推薦を受け受講費免除でモスクワ音楽院マスタークラスを修了、他にもバリ国際音楽アカデミー等海外の講習会にも積極的に参加しヴァイオリン、ヴィオラ、楽曲分析のクラスを受講する。関西弦楽コンクール優秀賞並びに審査員賞、日本クラシック音楽コンクール最高位、大阪国際音楽コンクールファイナル入選。これまでにヴァイオリンを故 稲岡和、北浦洋子、辻久子、宗倫匡、ヴィオラを吉海めぐみ、稲垣琢磨、安積宜輝各氏に師事。2015年より一般社団法人 アマービレフィルハーモニー管弦楽団に在籍しながら、2017年にはリサイタル開催、ブルガリア国立ソフィアフィルハーモニー管弦楽団と協演するなどソロ活動にも力を注いでいる。奈良県音楽芸術協会、川西音楽家協会、神戸フォーレ協会各会員。



## 田村賢一（チェロ）

大阪教育大学芸術専攻音楽コース卒業。チューバを故・唐川集三氏、チェロを大木愛一氏、指揮を故・甲斐正雄氏に師事。27回京都フランス音楽アカデミーでYannick Paget氏の指揮クラスを修了。チェリストとしては、クラシックのみならず幅広いジャンルをこなすマルチプレイヤーとして、指揮者としては、育児プラスたんぽぽ団、箕面コンサート室内合奏団などの常任指揮者を務めるなど、各方面で精力的に活躍中。また作曲・編曲家として、セレーノチェンバーオーケストラや人形劇団京芸などへの作品提供をはじめ、幅広いジャンルのコンサートやレコーディングなどで、高い評価を得ている。主な作品、ITOI / ITOIの動物の謝肉祭 おながくぬりえ 2017年発売。Pi・er・cello / カヴァーアルバム「GIRASOL」2015年発売。人形劇団京芸 / 火よう日のごちそうはひきがえる 2007年発売



## 有馬圭亮（左手のピアノ）

音楽家・左手のピアニスト。2010年、大阪教育大学在学中に局所性のジストニアを発症し、左手のピアノ曲の演奏を始める。2013年に現田茂夫指揮、日本センチュリー交響楽団、M.ラヴェル作曲『左手のためのピアノ協奏曲』の協演を機に、演奏活動を開始。第17回松方ホール音楽賞、奨励賞受賞。左手演奏の普及、復興を目的とする「左手のアーカイブ」プロジェクトにて、片手演奏のための教材制作や音楽教室「ワンハンド・ピアノレッスン」での演奏指導、学習者のためのワークショップを行う。2016年、「左手のアーカイブ」の法人化に伴い「一般社団法人ワンハンドピアノミュージック」理事。2018年11月には同団体の主催で世界初の試みとなる「左手のピアノ国際コンクール」を大阪府箕面市で開催。翌2019年1月 NHK-BS1スペシャル「私は左手のピアニスト～希望の響き 世界初のコンクール～」が放送される。